

馬場ひでゆきの活動日誌

No.96



(馬場の評価)

マスコミには、意欲的な予算編成と評価する向きもあります。しかし、これは、高市首相の「責任ある積極財政」というバラマキ政策があったからこそできたものに過ぎず、県の独自の力や発想によるものではありません。

「物価高対策」と称して、「県版Go To Eat」の事業をするそうです。これは、コロナ期の景気刺激策としては必要だったと思います。しかし、現在の物価高に悩む生活者に対する救済策として意味があるのでしようか。世の中には、外食にも旅行にもいけず、家計を節約している人がいます。そういう人たちにも届く事業が必要なのではないかと思えます。

また、経営が困難な医療機関が医療コンサルタントに経営支援をお願いした際に、そのコンサルタント料を援助するという事業もあります。この事業総額はなんと4億円。コンサルには金を出して「終わり」になるのではないかと心配です。

このように、県の予算事業は、一見する限り、高市政権のバラマキ政策の忠実な実行役ではないように思います。議会での丁寧な論戦が必要です。

★ 柏崎刈羽原発



「15区切り」

柏崎刈羽原発は、長年の県政課題であったところ、時間をかけて検証・確認を行い、できるだけ多くの県民の声を伺うなど、丁寧かつ慎重にプロセスを踏みながら取り組み、一つの区切りを迎えることができた。

2月24日から2月定例会（議会）が始まりました。花角知事は、議会冒頭の所信表明（議案説明）で、本年5月に実施される県知事選挙に出馬して3選を目指す意向を明らかにしました。知事の演説した内容の一部（上越地域の皆さんに関わるもの）をご報告し、それに対する私の考えをご説明します。

★ 令和8年度予算

「強い経済を実現する」



令和8年度予算（2月補正予算と一体編成）は、1兆2667億円。前年度に比較して大幅に拡充された国の重点支援地方交付金を活用して「物価高への対応や持続可能な社会の実現」と「強い経済を実現する成長投資」の2本柱で、「守り」と「攻め」の事業を両立させた。

(馬場の評価)

時間はかけましたが、中越沖合の地域活断層の長期評価はまだなされていませんし、県民投票条例案については冷淡な姿勢を貫き、公聴会は県民のアクセスを徹底して排除、県民意識調査は原発の安全キャンペーン、最後は信を問う「県民」には県議会も含まれると言って、県民の声を聞きませんでした。現在も、制御棒や警報器の不具合などが相次いでいます。「一つの区切り」というのは身勝手な自画自賛でしかありません。

★ 医療再編

「新たな全体像を示す」



人口減少に伴う医療ニーズの変化に合わせた医療再編をさらに進めて行くことが必要である。

上越地域においては、持続可能な医療提供体制の構築に向けて、医療だけでなく介護も含めた再編の検討を進めている。新たな中核病院の目指す姿を含め、今年3月までに再編の全体像を示したい。

(馬場の評価)

上越圏域（上越、妙高、糸魚川地域）では、一時期、中核病院という建物を一つ造るとか、県立中央病院と上越総合病院の急性期機能を一つにしようなどといったことが言われていましたが、昨年3月以後、どのような話し合いがされてきているのか極めて限られた関係者での話し合いしかなされておらず、現場の医療従事者もさっぱりわからないようです。

何よりも、現場の事情を無視して医療コンサルタントの机ではじきだした数値だけで再編が進んでしまうことを危惧します。

にいがた自治体研究所主催講演会 花角県政に対する対抗軸を！

2月21日、にいがた自治体研究所主催で、私が「県議会から見えた花角県政の課題」と題してお話しました。40名余りの方々にお集まりいただきました。私の講演の内容は次のとおりです。

花角知事は、柏崎刈羽原発の再稼働に「一区切り」をつけたとして、5月の知事選に立候補する意思を表明しました。自民党が総選挙の小選挙区ですべて勝利したことは、知事の追い風になっています。

しかし、知事は、自民党政権の忠実な執行をしてきただけです。柏崎刈羽原発を再稼働させ、地域医療の縮小再編を強行し、農業農村の疲弊を加速化させま



新潟中央法律事務所時代の職員さんも駆けつけてくれて感激！

した。この状況が続くことは、豊富な自然と広大な県土をもつ新潟県には不幸なことです。中山間地の生活を守り、都市と農村の調和が取れた生活や経済を作り出すことが必要です。

2016年の県知事選挙では、市民一人一人が力を出しきって米山知事を誕生させました。あの時のように、みんなで力を合わせて頑張りましょう。

新日本婦人の会糸魚川支部「新春のこころ」

条例案制定署名は無駄だったのか？

2月28日、糸魚川市に行き、大和川地区公民館で「柏崎刈羽原発再稼働について」と題してお話しました。40名を越える方々が参加してくださいました。

参加者から、「住民投票条例案制定のための署名活動を一生懸命したけれど、私たちの活動は無駄だったのでしょうか？」という質問がありました。

私は、「2016年の県知事選挙では、私たちの力で米山さんを知事に当選させることができました。18年の知事選挙では、花角候補に「原発再稼働については県民に信を問う」とまで公約させました。市民の力があつたからこそ、ここまで再稼働を遅らせることができたと思います。だから、今回の署名運動も今後の原発の稼働を制御する力になります」と回答しました。

Break

「現場で学ぶ」－石井照男さんの死を悔やむ

2月24日、元同僚の松永仁弁護士からの報で石井照男さん(享年74歳)が逝去されたことを

知り、新発田市内のご自宅に弔問しました。

石井さんという方は、私にとっては現場の師匠でした。私が弁護士に成り立ての頃、石井さんは新発田市内でギフトショップを営まれていました。以前は金融機関に勤務されていたこともあり、金融実務に長けていました。

ある事件を通じて石井さんと知り合いました。当時は、バブルが崩壊し、中小零細企業は資金繰りに追われ、商工ローン、サラ金、ヤミ金に手を出し、廃業や倒産が相次ぎ、自殺者も出て大変でした。石井さんは、業者を守る立場で私に解決策を伝授してくれました。地元の人たちの話を聞いて親身に世話をする石井さんの姿は、私の理想でもあり、私にとっては現場の師匠でした。

今、AIで何でもできる、弁護士も不要になるとか言われていますが、現場でつかむ事件の感触はAIにはできません。石井さんのことを思い出しながら、そんなことを考えました。



雨でしたが、会場は参加者で一杯になりました！

2月14日～2月27日

- 1月14日 警女宿Live 月岡祐紀子さん演奏会(高田小町日誌95号で報告)
- 14日 桑取地区横畑集落小正月行事「馬」「馬ゴト」(古民家カフェ平左衛門 日誌95号で報告)
- 19日 多文化共生の問題について大崎ジュナリンさんにインタビュー(日誌95号で報告)
- 21日 にいがた自治体研究所講演会(新潟市 コーポシティ花園ガレツソ)
- 22日 上越神輿連合会新年会(ヨードル金谷) 神輿を担いでお祭りを楽しむ皆さんの団体です。お花見や上越祭りについても頑張っていたいています。
- 23日 杉みき子の世界をあなたに(オーレンプラザ)
- 23日 マリキータと仲間たちコナンサート(高田まちかど交流館)
- 24日 県議会 本会議開会
- 24日 妙高会総会(万代シルバーホテル) 妙高会は上越市妙高市出身の県職員の親睦会です。
- 25日 県議会(連合委員会)
- 27日 県議会(代表質問)

発行責任者：馬場ひでゆき事務所
住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号
ダイアパレス高田式番館2階
電話 025-546-7110
ファックス 025-546-7666
メール kengi-babahideyuki@wind.ocn.ne.jp